

平成 23 年度科学技術戦略推進費

「ゲノム情報と電子化医療情報等の統合によるゲノムコホート研究の推進」作業部会 における審査結果

提案プロジェクト名	代表機関名		総括責任者名		提案プロジェクトの概要	採択コメント
大規模分子疫学コホート研究の推進と統合	独法	国立がん研究センター	理事長	嘉山 孝正	<p>わが国において大規模分子疫学コホート研究を推進する上で重要となる、現行大規模分子疫学コホート研究のコンソーシアム構築とその統合ノウハウを開発する。開発したノウハウにより現行分子疫学コホートを統合し、さらに多くの地域集団のコホート研究集団への参加と新規地域での立ち上げを促すことにより、コホートのコンソーシアム規模を拡大させ、最終的に、数十万規模の、わが国における大規模分子疫学コホート研究の構築と統合解析を実現させるのが本研究の狙いである。</p>	<p>代表機関は、多目的コホート研究（JPHC）など大規模コホート研究を長年にわたり継続して実施しており、大規模ゲノムコホート研究を実施するに十分な研究体制、実績を有している。これまでの経験を踏まえた具体性・実効性のある事業計画、大規模コホート研究において98%という高い追跡率を可能にする機関の組織力、多目的コホート研究の立ち上げにおいて中心的役割を果たした研究代表者のリーダーシップが高く評価された。また、代表機関は国内外の大規模コホートコンソーシアムにおける統合解析の豊富な経験を有することから、国内で展開される現行大規模コホート研究の統合を実現し、我が国の大規模ゲノムコホート研究を牽引する中核拠点になるものと期待される。</p> <p>なお、追跡調査において、がん以外の疾患にも十分留意するとともに、将来的にはバイオインフォマティクスによる大量ゲノム情報の解析を行うことが必要である。また、リシークエンスの実施、及びゲノム情報収集の標準化のための体制構築が望まれる。さらに、ゲノムコホート研究の中核拠点として、現行大規模コホートコンソーシアムと積極的なネットワーク形成を図ることが期待される。</p> <p>【採択条件】 追跡調査においては、がん、循環器疾患、糖尿病に加え、うつ病、認知症等も視野に入れ罹患情報を把握すること。また、バイオインフォマティクスの解析力を強化するため、その人材育成に努めること。</p>